

会計事務所は経営者のパートナーとして何ができるのかを追求

財務部長業の代行で中小企業経営者を支援するさきがけ税理士法人

さきがけ税理士法人 財務支援課 課長 S P 融資コンサルタント 新巻大輔

さきがけ税理士法人は、東京都多摩市に本部を構える大型会計事務所である。同法人財務支援課課長の新巻大輔氏（次ページ写真）は、中小企業の経営者が抱える資金繰りの問題を支援する「財務部長代行」サービスの提供に取り組んでいる。このサービスは、企業の資金繰りを円滑に進める大企業の経理部長のような役割を、会計事務所が代行するものである。経営者は月々わずか数万円のコストで資金繰りの不安が軽減され、本業に集中することができるため、さきがけ税理士法人においても人気の付加価値サービスのひとつとなっている。今回の取材では、「財務部長代行」サービスを主導する新巻氏に、サービスの概要や今後の展開などについて伺った。（取材・撮影 鈴木将也）

新巻 さきがけ税理士法人には たのです。

入所説明会で「北斗の拳」のテーマが流れる会計事務所
—— はじめに、新巻課長がさきがけ税理士法人に入社した経緯をお聞かせください。

新巻 2016年に入社しました。人材募集を見て説明会に参加したのですが、指定された部屋に入った瞬間、会場を間違えたのかと思うほど驚きました。「北斗の拳」や「ドラゴンボール」のテーマ曲が大音量で流れていたのです。会場ではスタッフの皆さんがとても楽しそうに発表しており、発表の順番を待つ間も、スタッフ同士が和やかに会話をしていました。その後、他の事務所も見学しましたが、さきがけ税理士法人の雰囲気

関与先企業の財務部長を代行する

—— さきがけ税理士法人で取り組んでいる業務について教えてください。

い。

新巻 以前の私は、法人担当、確定申告、税務調査など、税務業務全般を担当していました。そのなかで、これからお話しする「財務部長代行」サービスに、税務業務と並行して取り組むようになりました。

サービスとして形が整ってきたタイミングで、2022年に財務支援課という新たな部署を立ち上げ、税務業務から独立した形で本格的に取り組むようになりました。財務支援課としては、ちょうど丸3年が経過したところです。

—— 「財務部長代行」サービスとはどのようなものですか。

新巻 その名の通り、中小企業のお客様の財務部長の役割を弊社が担うというものです。

具体的には、資金繰り計画表の作成や、金融機関との連携、必要に応じた融資交渉や計画の立案など、資金繰りを円滑に進めるための業務を「財務部長」としてサポートします。こうした支援を通じて、社長が資金繰りの不安から解放され、本業に専念できる環境づくりを目指していま





新巻大輔（あらまき・だいすけ）

さきがけ税理士法人財務支援課長。2016年にさきがけ税理士法人に入社。財務部長代行サービスを中心に、中小企業経営者の資金面での不安を解消し、本業に集中できる環境づくりを支援。

す。

——なぜこのようなサービスを提供しているのですか。

新巻 大企業であれば、社内に財務部長を置いていることが多いと思います。しかし、中小企業の場合、財務の知識を持った専門人材をひとり雇うのは、現実的にはなかなか難しいのが実情です。

多くの場合、社長が自身が財務を

ち上げました。

最近では他の会計事務所でも、融資計画の作成や銀行への同行など、単発の融資支援を行うケースが増えています。私たちも、そうしたご依頼に対応することはありますが、単発の支援だけでは、結局「お金を借りるタイミング」だけがフォーカスされてしまい、資金繰り全体を継続的にサポートすることはできません。会社の資金の流れは常に変化するものですから、一時的に融資がうまくいけばよい、というものではないと考えています。

そこで私たちは、毎月しっかりとお客様と関わり続けることを大切にしています。また、銀行との付き合い方についても、お金を借りるタイミングだけ銀行と連絡を取るよりも、日頃から定期的に良好な関係を築いておくことで、いざというときにスムーズに融資を受けやすくなります。そうした点も含めて、弊社が専門家として継続的にサポートし、経営を支えています。

——貴社が関与先の財務部長の役割を果たすことで、社長が本業に集

中できることがこのサービスのポイントですね。

新巻 はい。資金繰りは非常に重要な業務ですが、必ずしも社長ご自身が行う必要はありません。弊社で十分に代行できる業務ですので、社長には、社長にしかできない本来の役割に集中していただきたいと考えています。資金面での悩みがあると、どうしても社長の頭や心の多くを占めてしまい、本業に専念しづらくなってしまいます。

弊社に財務面をお任せいただくことで、社長には安心感と心の余裕が生まれるはずです。その結果、営業や現場対応、人事・採用、さらには経営計画の策定など、社長にしかできない業務により多くの時間とエネルギーを注いでいただけます。こうした本来の社長業に集中していただき、会社の業績向上につなげていただくことが、「財務部長代行」サービスの目的です。

数字の裏にある社長の
思いを読み取る

——財務部長の代行は難しい業務だと思うのですが、担当するスタッフにはどのような資質が必要なのでしょうか。

新巻 黒川がよく言うのは「この業務にはセンスが必要だ」ということです。

もちろん知識や理論も大切です。たとえば、金融機関が重視するポイントを押さえて決算を進めたり、通帳のお金の動かし方を工夫しないと、融資がスムーズに受けられないなど、理論的に説明できる部分もあります。しかし、資金繰りは将来の予測や社長の意向なども加味して考える必要があり、未来会計に近い側面もあります。理論だけではうまくいきないうことも多いのです。たとえば、資金繰り表を作成し、数字の流れを見て「これなら問題ないだろう」と思っている、3カ月後に突然会社の資金繰りが厳しくなるケースもあります。

担当されたり、場合によっては財務面が十分に管理されていないケースも見受けられます。ですが、そのままでは事業がうまくいかなることも少なくありません。特に近年はコロナ禍の影響もあり、資金繰りに苦しみ会社や、社長が熱意を持って事業を進めていても資金面で行き詰まってしまう会社が増えています。そうした状況を「もったいない」と感じたのが、弊社代表の黒川明であり、このサービスを始めたきっかけでもあります。

資金繰りを円滑に回す財務部長を中小企業が雇用しようとすると、年間で数百万円の人件費がかかってしまいます。しかし、中小企業の財務を担うために、そこまでのコストは必ずしも必要ないと私たちは考えています。

私たち会計事務所は、日頃から会社の数字を見て整理する立場にあります。そこにもう一步踏み込んだサポートを加えることで、財務部長と同等の機能を提供できるのではないかと考え、月々数万円の費用で財務部長の機能を実現するサービスを立

その原因としては、例えば取引先との関係が悪化して案件が減っているのに、従来通りの予測で計上していたりすることがあります。また、資金に余裕があると思っていたら、実は社長が個人資産を多く投入していて、それが家族や友人からの借入で数カ月後に一括返済が必要になる、という場合もあります。

このようなことは、表面上の数字や資料、決算書を見ているだけではなかなか把握できません。社長と表面的なやり取りしかできていないと、本当の意味で財務部長の役割を果たすことはできないと感じています。

——社長との関係性が重要ということですね。

新巻 はい。会社の「財務部長」として、会社のお金に責任を持って対応する以上、社長にもすべての情報をしっかりと開示していただく必要があります。

また、財務部長として専門的な立場から、ときにはアクシデントやイレギュラーな事態が起こる可能性も想定しながら、これまでの数字の動きを踏まえて「社長が本当にやりた



さがけ税理士法人の「財務部長代行」サービス

さがけ税理士法人

相談ダイヤル
0120-964-316

最寄駅の中のお客様はこちら
042-313-8364

お問い合わせ

SERVICECOMPANYMEMBERABOUTACCESSRECRUITCONTACT

SERVICE

財務部長代行

TOP / サービス / 財務部長代行

“ 資金の心配がいらない
経営基盤作りをサポートいたします。

解決できる課題

POINT 01

設備投資、事業拡大、資金繰り改善のために融資を受けたい

POINT 02

自社の資金繰りを改善したい

POINT 03

数年先も持続えた長期的な経営計画を立てて、会社を成長させたい

サービスの特徴

中間規模以上の企業が必要している中で、中小・零細・創業間もない企業を持っていない（必要性を感じていない）機能が「財務」の機能です。 貴社の財務部長代行サービスにより財務機能を補完し、安定した経営基盤作りを支援します。

サービス紹介動画

【財務部長代行サービス】一経営危機を脱げるために

財務部長って何をする人？

経営企画部 財務企画課 新巻 大輔

具体的なご提供内容

✓
プロによる資金調達支援

✓
月々の資金繰り管理代行

✓
キャッシュフロー向上のための経営計画の提案

✓
金融機関との毎月のコミュニケーション代行

いいことは何なのか」を丁寧にお伺いします。もし「実はこういうことをやりたいんだ」と率直にお話しいただければ、資金の流れを確認したうえで「資金的に問題ないので、ぜひ進めてください」と背中を押すこともできますし、逆に「急にその動きをすると資金が不足する可能性があります」と、必要に応じてブレーキをかける役割も担います。

このように、社長の想いに寄り添いながら、ときにはアクセル、ときにはブレーキとして機能することが財務部長には求められます。こうした判断力やバランス感覚は、単に勉強すれば身につくものではなく、やはり黒川が言うところの「センス」が大きいのではないかと感じています。ただし、ここで言う「センス」とは生まれつきの才能ではなく、実

務を積み重ねることで、後天的に磨かれるものだと考えています。

―― 金融機関との関係構築も重要な要素ですね。

新巻 銀行との交渉の場面では、私たちが社長の隣に立ち、一緒にやり取りを行うことも多くあります。そのため、銀行の担当者や円滑にコミュニケーションを取り、良好なチーム関係を築けるかどうかが非常に重

未来会計で守りと攻めの両輪体制へ

―― 「財務部長代行」サービスは素晴らしいサービスだと思いますが、何か課題を感じていることはありませんか。

新巻 そうですね。会社の基盤となる資金面はしっかりサポートできているものの、利益といった部分までは十分に踏み込めていないと感じています。

たとえば、売上がなかなか上がらず利益も出せない場合、あるいは逆に売上が急激に伸びて資金が不足してしまう場合には、資金調達などのサポートは行っています。しかし、全く売上が上がらず利益も出せない社長に対しては、「財務部長代行」サービスの範囲では「何とか頑張ってください」としかお伝えできない場面があります。

この点について、私自身、経営者のパートナーとしては不十分だと感じています。財務部長という立場だけでは、経営者の隣に立ちきれてい

ないのではないかという思いがずっとあります。

「財務部長代行サービス」は、資金面をしっかりとサポートするという意味で、どちらかといえば「守り」の性格が強いサービスだと考えています。しかし、経営の本質的な部分、つまり「攻め」の領域、売上をどう伸ばすか、利益をどう残すかといった課題に対しても、私たちがサポートできる体制が必要だと、サービス開始当初から感じていました。

その「攻め」の部分を担当のが、まさにM A S監査だと考えています。そして、利益が出るようになった段階での資金管理については、「財務部長代行」として引き続きしっかりと支えていく。この両輪が揃ってこそ、真の意味でのフルサポートが実現できると感じています。

こうした考えから、昨年からM A S監査や未来会計の分野にも積極的に取り組み始めており、今後さらに推進していきたいと考えています。

正直なところ、財務部長業務にはやりがいがありますが、あまり楽しくはありません。

―― それはどういうことでしょうか。

新巻 財務部長の仕事がうまくいっている状態というのは、資金繰りが毎月スムーズに回り、銀行とも問題なく連携できているため、特に大きなトラブルが起きないことを指します。

これは非常に良いことなのですが、例えるなら「警察が暇なときは世の中が平和」という話と同じで、財務部長がやることが少ない状態こそが理想的とも言えます。資金繰りが安定してしまうと、正直なところ、財務部長として関われる業務も少なくなってしまうのです。

一方で、M A S監査や未来会計の分野では、社長と一緒に「これから何をしていくか」「どう進めていくか」といった未来志向の話を、熱意を持って議論できます。資金繰りが安定していると、社長も「通帳に余裕があるから大丈夫」と安心しがちで、資金の話自体はあまり面白みを感じないものです。しかし、「今後どうしていくか」「何に挑戦するか」「失敗したけれどうまくいっ

要です。金融機関の担当者は本来、会社の味方であるべき存在ですが、対応を誤ると敵対的な関係になってしまうこともあります。

例えば、融資を希望しているのに思うように融資が受けられなかったり、融資を受けている場合でも決算書を提出した際に「この数字がおかしい」と指摘されて対応に苦慮したりする場面では、社長が金融機関を敵視してしまうことも少なくありません。しかし、本来は会社をより良くするために、それぞれの立場で協力し合うことが理想だと考えています。

また、銀行との取引が複数ある場合は、それぞれの担当者や、さらにその上司とも関係を築く必要があり、関わる人数も増えてきます。そうしたなかで、関係者全員と円滑なコミュニケーションを図り、チームとしてうまく機能させることが、私たちの大切な役割だと感じています。

た」といった前向きな話ができるほうが、私自身もやりがいを感じますし、仕事としても楽しいと感じます。

そのため、今後は財務部長の業務以上に、未来会計やM A S監査の比重を高めていきたいと考えています。こうした分野は私たち自身もワクワクしますし、社長にもそのワクワク感を感じていただけるサービスだと思っています。今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

経営者の個人資産まで含めたトータルサポート

―― 「財務部長代行」と未来会計の両立が財務支援課の今後の方向性ということですね。

新巻 はい。財務部長業務については、必要な部分の数字の管理や整理をしっかりと行うことが基本だと考えています。そのうえで、前に進むための原動力となるのがM A S監査や未来会計であり、これらを中心に据えつつ、その周囲をしっかりと守りで固めていく体制が理想的だと思います。

現在、財務支援課としてまず目指しているのが、まさにそのようなサービスの形です。そして、もうひとつの新たな取り組みとして、社長個人の資産まで視野に入れたFPサービス、つまり資産管理や資産運用のサポートも始めています。

この分野については私たちもまだ十分なノウハウがあるわけではありませんので、外部の専門家と提携しながら一緒にサービスを提供していきます。これまでお話ししてきた内容はすべて法人内のことでしたが、社長という立場に着目すると、やはり個人資産も切り離せない重要な要素です。法人と個人、両方の資産を総合的に見たときに、どのように資産を最大化できるかを考え、サポートしていきたいと考えています。

—— 会計事務所がFPサービスに
取り組む意義を教えてください。

新巻 個人向けのFPサービスは以前から存在していますが、実は未来会計と非常に似ている部分があります。たとえば、平均寿命までのライフプランを予測し、そのなかで資産が十分かどうかを判断します。もし

資産が不足する場合には、どのような対策を講じるべきかを一緒に考え、具体的なプランを組み立てていくのが特徴です。ここまでサポートできれば、資金面についてはかなり包括的な支援が可能になると考えています。

法人の経営部分は未来会計、資金繰りは財務部長、そして個人資産はFPサービスと、それぞれの領域をしっかりとカバーし、すべての面で「心配がない」状態を実現することが、財務支援課として目指している理想の形です。

こうしたサービスをしっかりと構築できれば、私たち自身にとっても、また税理士法人としても大きな強みになると感じています。

人間力と専門知識の両立

—— 最後になりますが、会計業界への思いをお聞かせください。

新巻 会計業界には、どうしても少し堅いイメージを持たれている方が多いと思います。また、よく話題に

なるのは「Aーに仕事を奪われるのではないか」という点です。確かに会計の数字は複雑ですが、Aーの進化によって、いずれ税理士に依頼しなくても済む時代が来るのではないかと、という声も耳にします。

ただ、私が感じているのは、そうした議論が出てくる時点で、業界全体がやや盛り上がり欠けているのではないかということです。そもそも会計の数字はあくまで手段であって、目的ではありません。

私たちが会計事務所のサービスも、未来会計などを含め、経営計画をテクニカルに作り込むことが本質ではなく、数字をもとに状況を整理し、経営者の意思決定をサポートすることが役割だと考えています。

数字が得意だからこそ数字を切り口にしていますが、本当に目指しているのは、社長やその会社、そして従業員の皆さんに幸せになっていたかどうかです。誰かの幸せを実現したいという思いが、私の中で一番の原動力になっています。

さきがけ税理士法人には「虎の巻」というものがあり、そこに経営

理念がまとめられています。「人間力と専門知識で、お客様、地域、そして日本を元気にする」というものです。ポイントは、「人間力」が先にあり、「専門知識」はあくまでもそれを実現するための武器であるという考え方です。専門知識を身につけること自体が目的ではありません。とはいえ、人間力だけあってもプロとしてサービス提供はできませんので、両方が必要であるという話なのです。その人間力という点が、会計業界全体でもっと重要視されるような形になっていくと素晴らしいと思います。

私も己の人間力を磨き、中小企業経営者へ提供するサービスの質を高める努力を続けることで、会計業界に何らかの貢献ができればと思っています。

—— ありがとうございます。さきがけ税理士法人のさらなる躍進を祈念しています。